

令和 4 年度

熊本赤十字病院

外科専門研修プログラム



熊本赤十字病院

JAPANESE RED CROSS KUMAMOTO HOSPITAL

目 次

1. 熊本赤十字病院 外科専門医研修プログラムについて
2. 研修プログラムの施設群
 - 専門研修基幹施設
 - 専門研修連携施設
3. 専攻医の受け入れ数について
4. 外科専門研修について
 - 1) 熊本赤十字病院の外科専門医研修プログラム
 - 2) 年次毎の専門研修計画とモデルプラン
 - 基本コース
 - 消化器外科コース
 - 心臓血管外科コース
 - 呼吸器外科コース
 - 小児外科コース
 - 移植外科医コース
 - 3) 研修の週間計画および年間計画
 - 熊本赤十字病院週間計画
 - 研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール
5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）
6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル - 到達目標 3- 参照）
7. 学問的姿勢について
8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル - 到達目標 3- 参照）
9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
10. 研修施設群の概要について
11. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル -VI- 参照）
12. 専門研修プログラム管理委員会について（外科専門研修プログラム整備 基準 6.4 参照）
13. 専攻医の就業環境について
14. 修了判定について
15. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
16. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
 - 研修実績および評価の記録
17. 専攻医の採用と修了
 - 採用方法
 - 研修開始届け
 - 修了要件
18. 処遇・福利厚生について

はじめに

熊本赤十字病院の医師教育理念

- ①救急医療と総合診療を中心に幅広い疾患に対応できる医師の養成
- ②患者や家族の社会的背景に配慮し、診療各科及び他職種と協力できる医師の養成
- ③地域に貢献し、信頼される医師の養成
- ④地球的視野で災禍を見つめ、積極的に医療救援活動に参加できる医師の養成

熊本赤十字外科専門医研修プログラムは、熊本赤十字病院の理念を基本として、総合的な外科医が身につけるべき能力を3年間で育成していくものです。

1. 熊本赤十字病院 外科専門医研修プログラムについて

1) 熊本赤十字病院の理念

熊本は日本赤十字社発祥の地です。西南の役で、敵味方の区別なく傷病者を救護した博愛社にその端を発します。その伝統ある熊本の地で、熊本赤十字病院は理念である『「人道・博愛・奉仕」の実践』の精神に則り、医療を実践してきました。

西南の役での「敵味方の区別なく」の精神は、「こどもから高齢者まで、急病、外傷、中毒など原因や罹患臓器の別に関わらず、全ての緊急性に常時対応する」という、熊本赤十字病院の救急医療のスタンス「Anyone、Anything、Anytime」に継承されています。

科の垣根を超え、全ての患者に全力を尽くす。専門的診療能力と、医療人として患者に寄り添う全人的医療を兼ね備えた外科医の姿が当院の目指す形です。

熊本赤十字病院 外科専門医研修プログラムの目的と使命は以下の7点です。

- 1) 医師として最低限必要とされるプライマリケアの知識、診療能力を習得すること
- 2) 外科医として身に付けるべき、専門的な知識、診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備え、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること
- 6) 専門領域の異なる他領域の専門医と良好な連携を取ることができ、コメディカル、看護師など他職種とチームで患者に最善の医療を提供できること
- 7) 地域の医療機関と連携を取り、地域住民の健康に対し貢献することができること

2. 研修プログラムの施設群

熊本赤十字病院と連携施設（5施設）により専門研修施設群を構成します。

本専門研修施設群では 25名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

基幹施設及び連携施設の概要は以下の通りです。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	研修可能な領域 1：消化器外科、2：心臓血管外科、3：呼吸器外科、4：小児外科、5：乳腺内分泌外科、6：その他（救急含む）	1. 統括責任者名 2. 統括副責任者名
熊本赤十字病院	熊本県	1.2.3.4.5.6.	1. 横溝 博 2. 田中 栄治

専門研修連携施設

No.	名称	都道府県	研修領域	連携施設担当者名
1	熊本大学病院	熊本県	1.2.3.4.5	池田 公英
2	熊本セントラル病院	熊本県	1	山口 賢治
3	武蔵ヶ丘病院	熊本県	1.6	水流添 周
4	愛知医科大学病院	愛知県	1.2.3.4.5.6	小林 孝彰
5	上天草総合病院	熊本県	1.6	平岡 英治
6	手稲溪仁会病院	北海道	1.2.3.4.5.6	安保 義恭
7	聖マリア病院	福岡県	1.2.3.4.5.6	鶴 知光

本プログラムでは、上記の7施設を連携施設としています。

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の1年間NCD登録数は約2,134例で、専門研修指導医は33名です。

本年度の募集専攻医数は2名です。

4. 外科専門研修について

1) 熊本赤十字病院の外科専門医研修プログラム

①熊本赤十字病院

熊本赤十字病院は、日本外科学会指定施設、消化器外科学会専門医制度修練施設、心臓血管外科専門医認定基幹施設、呼吸器外科専門医制度関連施設、小児外科学会小児科教育関連施設、外傷専門医研修施設です。

i) 外科（一般外科・呼吸器外科・乳腺外科）

外科だけで、年間約 1200 症例、血管外科や小児外科、乳腺外科を含めると 2200 症例の手術を行っています。外科に関していえば悪性疾患の手術が 1/3、Acute Care Surgery が 1/3、胆石・ヘルニアなどの良性疾患が 1/3 と症例数も疾患のスペクトラムも研修に十分と考えています。

また、腎移植を行っており、移植に関する知識や技術を学ぶとともに、さらに移植専門医としてキャリアを積んでいくことも可能です。



ii) 心臓血管外科

年間約 400 症例の手術を行っています。うち、心臓・胸部大動脈が約 150 例、腹部大動脈・末梢血管等が 250 例と多彩な症例にあたるのが可能です。平成 22 年からは毎年 1 名程度の後期研修医を育成しており、若手を含めたチームで診療に当たり、実践的に標準手術の経験を積むことができます。

また、植え込み型補助人工心臓の植え込み手術など新しい治療に対しても積極的に取り組んでおります。

iii) 小児外科

日本では救急病院に小児外科が開設されていることは少なく、小児外科医としては非常に特殊なトレーニングを積むことが可能です。外傷や腹痛患者などに対する初期評価、初期介入、画像診断を含めた診断、手術を含めた治療までを一貫して行えることを目標とします。対象疾患は、当院の小児科診療の高度化に伴い、年々、様々な分野の高度な疾患を扱うように変化しています。また、小児ではCTの使用が制限されるため、画像診断技術の一環としてエコーの技術習得を必須としています。

日常診療では、ほとんどの手術を腹腔鏡で行っています。術野が狭いため同じ術式でも成人よりも難易度が高くなります。ある程度以上の一般外科のトレーニング後であれば1か月程度で、低難易度（そけいヘルニア、虫垂炎など）の術者や高難易度手術（噴門形成、脾臓摘出など）の部分的な術者を経験することが可能です。年間の手術は 260 例程度です。

iv) 外傷外科 (Acute Care Surgery 部門)

平成 27 年 4 月から救命救急センター内に外傷外科を設置し、重症外傷患者の救命率向上を図るために、初療から手術・集中治療までを一貫して治療できるようになりました。

外傷診療ではチーム医療が特に重要であり、多発外傷では外傷関連各科の協力も不可欠です。外傷外科がチームマネジメントを行い、迅速かつ適切な治療戦略のもとで最適な医療を提供しています。平成 29 年 11 月から外傷専門医研修施設の認定を受け、蘇生のために行う初療室手術も年間約 30 例にもものぼっており、重症外傷センター化を目指しています。希望すれば、外傷外科のチームに所属して Acute Care Surgery 部門の修練を積むことも可能です。



v) 国際医療救援 (災害医療)

当院は全国に 5 ヶ所ある国際救援拠点病院として、延 250 名の要員を派遣しております。

外科領域においては、戦傷外科、災害医療などの分野において、活躍しております。救援要員として求められるのは、自己完結できる能力であり、麻酔科や整形外科、産婦人科など他領域の経験も必要とされます。また、派遣に必要とされる英語研修などの補助事業も行っております。

国内の救援にも赤十字病院として要員を派遣しており、年間 6 回の救護訓練を実施しています。熊本地震の際は、発災から 5 日間で 1,397 名の患者さんを受入れました。

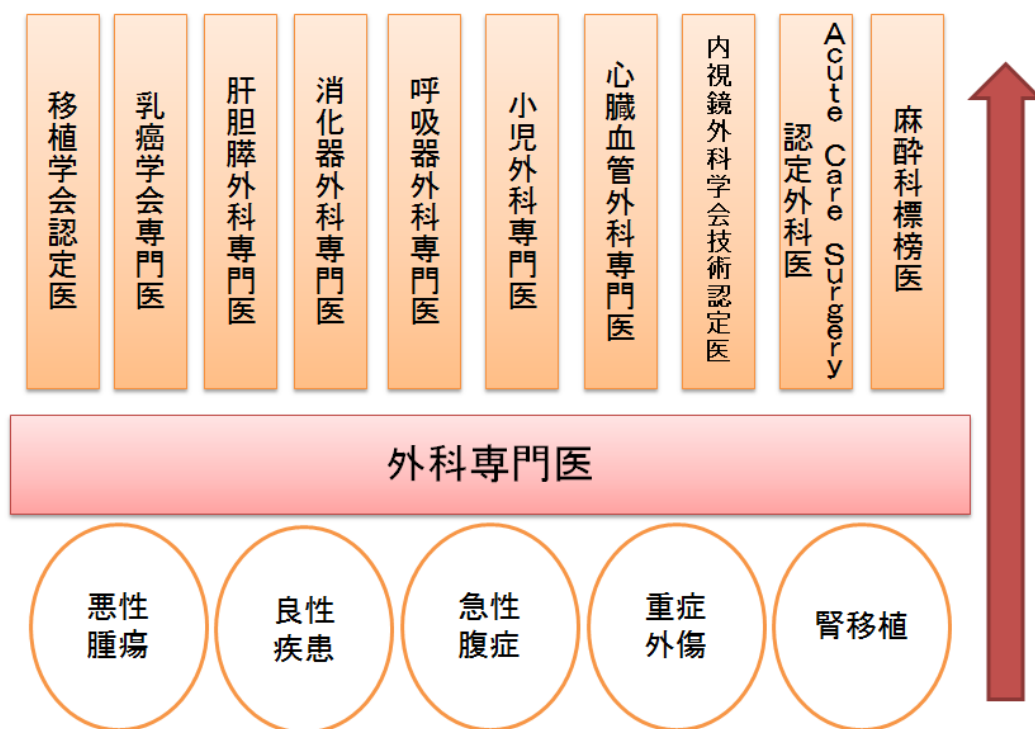


当院では、外科 (消化器および呼吸器)、心臓血管外科、小児外科、乳腺内分泌外科があり、3 年間の研修ではこれらをローテーションしていくこととなりますが、乳腺内分泌外科に関しては外科研修時に同時に研修を行うこととなります。

これまでの実例を参考にしたモデルコースを下記に示します。当院では外科専門医要件を満たす十分な症例を短期間で経験でき、また診療科の垣根が低いため、3 年間のうちに救急科、麻酔科、消化器科、内

科、泌尿器科など研修も可能となっており、専攻医の意見を取り入れながら、自由度の高い研修計画を作ることができると考えています。

それぞれ、外科専門医取得を前提とし、さらにサブスペシャリティを見据えて、キャリアを積んでいける内容です。3年間の研修を基本としていますが、研修の進行状況や希望により1年延長することもあります。各領域の専門医、肝胆膵外科高度技能専門医、内視鏡外科技術認定医、心臓血管外科修練指導者から指導を受けながら、自らのキャリアパスを描くのによい環境です。



②連携施設

普段より、密に医療連携をとっている医療機関が連携施設となっており、連携施設での研修により、地域医療を経験し、その理解を深めることができます。

- 熊本大学病院
- 熊本セントラル病院
- 武蔵ヶ丘病院
- 上天草総合病院
- 愛知医科大学病院
- 手稲溪仁会病院
- 聖マリア病院

③学習環境について

学会発表や論文作成にも力を入れており、文献検索に十分な環境や論文投稿時の奨励金制度もあります。院内研修が盛んにおこなわれており、医療安全、感染対策、医療倫理などの知識やスキルを得る機会も多くあります。

また、院内にシミュレーションルームがあり、アニマルトレーニングに参加するなど、Off-the-Job training を行う環境も整っています。

2) 年次毎の専門研修計画とモデルプラン

基本的に、1年目は外科を中心に診療を行い、2年目からサブスペシャリティを意識しながら、各自の希望に応じたローテーションのプランを立てていきます。

ローテーション (例)

1年目	熊本赤十字病院			一般外科中心
2年目	熊本赤十字病院	※	※	サブスペシャリティ ・消化器外科 ・呼吸器外科 ・心臓血管外科 ・小児外科 ・外傷外科 等
3年目	※	※	熊本赤十字病院	

※3ヶ月を1コマとし、6～12ヶ月間、連携施設での修練を行う。

連携施設やサブスペシャリティの時期や期間は研修到達状況と本人の希望を元に研修委員会で決定する。

※ローテーションは例であり、専攻医の希望と到達度を鑑みて、研修医委員会によって決定します。

※連携病院研修の研修先の選択、期間、時期については、本人の希望及び到達度によって委員会によって決定します。

3) 研修の週間計画および年間計画

①熊本赤十字病院

<外科、呼吸器外科、乳腺外科>

	月	火	水	木	金
7:00-7:30			CT 読影講義	術前カンファ	週替わり*
7:30-8:00			外科カンファ		
8:00-8:30			#		業者説明会
8:30-8:45	医局会				
9:30-17:00	手術 病棟業務	手術 病棟業務	部長回診 手術 (乳腺)	手術 病棟業務	手術 病棟業務
17:00-18:00				Cancer Board (不定期)	

#M&M カンファ、診療科内での治療方針に関するカンファレンスなど

* (抄読会、ビデオカンファ、外傷カンファ、術後カンファ等)

オンコール 7回/月 回程度

全体当直 2回/月 回程度

<心臓血管外科>

	月	火	水	木	金
朝	心エコーカンファ		抄読会	手術検討会	手術症例合同カンファ
午前	手術	手術	手術	手術	手術
午後	術後と病棟管理	術後と病棟管理	術後と病棟管理	術後と病棟管理	術後と病棟管理
その他	循環器内科合同カンファ(夕方)	循環器内科合同カンファ(夕方)	循環器内科合同カンファ(夕方)	循環器内科合同カンファ(夕方)	循環器内科合同カンファ(夕方)

- ・毎日7:00 部長回診
- ・毎週火曜18:00 勉強会(不定期)

<小児外科>

	月	火	水	木	金	土、日
午前	外来	外来	手術日	外来	手術日	オンコール
午後	エコー	エコー		エコー		
他の予定	術前カンファ				病棟カンファ	

<ACS部門>

	月	火	水	木	金
7:00-7:30					トラウマカンファ(第4週)
7:30-8:00			外科カンファ		
8:00-8:30			ア		
8:30-8:45	医局会				
8:45-9:00	集中カンファ				
9:00-11:00	回診	回診	外科総回診	救急カンファ	回診/病棟
11:00-12:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	外傷外科カンファ&抄読会
13:00-16:00					病棟業務
16:00-17:05	夕回診				

※1 基本は集中治療室での病棟業務(各担当日は担当業務を優先)

※2 プレホス担当は外傷事案に対して要請時にプレホスから医療介入する

※3 救急外科担当は外科ファーストとして初療から関わり緊急手術～術後管理／退院まで

※4 重症外傷症例では外傷外科を中心に外科／救急科と協同して外傷蘇生を行う

②熊本大学病院

<小児・移植外科>

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:00 教授回診	○						
8:00- 手術	○	○	○	○	○		
9:00-13:00 午前外来	○		○	○	○		
13:00-16:00 午後外来					○		
13:00-14:00 研究室ミーティング	○						
16:00-17:30 移植外科デイリーミーティング(病棟)	○		○		○		
7:30頃- 病棟業務	○	○	○	○	○		
7:30-8:30 抄読会					○		
14:00-移植外科カンファレンス、16:00-小児外科カンファ				○			
17:30-18:30 院内移植カンファレンス					○		
10:30- ホリデーミーティング(病棟)						○	○

<心臓血管外科>

	月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:30 回診・朝カンファ	○	○	○	○	○		
8:00- 手術	○	○	○	○	○		
8:30-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00-12:00 外来		○		○			
7:30-8:00 循環器症例カンファレンス				○			
16:00- 抄読会		○					
16:30- 麻酔科カンファレンス					○		

<呼吸器外科>

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:00 抄読会、勉強会			○				
7:00-7:30 朝カンファレンス		○					
8:00-10:00 病棟業務		○		○			
10:00-12:00 午前外来		○		○	○		
9:00- 手術	○		○		○		
7:30-7:30 総回診	○	○	○	○	○		
17:00-17:30呼吸器科合同カンファレンス		○					

<消化器外科>

	月	火	水	木	金	土	日
7:00-7:30 スタッフ会議	○						
7:30-8:00 回診	○	○		○	○		
8:00-8:30 当直報告、術前術後報告	○	○	○	○	○		
8:30- 総回診			○				
9:00- 外来	○	○	○	○	○		
9:00- 手術	○	○	○	○	○		
17:30- グループカンファレンス、他科合同カンファレンス	○						
18:00- 医局会、合併症カンファレンス、学会予行				○			
19:00-19:30 グループ抄読会							
18:30- 輪読回、抄読会				○			
				○			

<乳腺内分泌外科>

	月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:00 回診	○			○			
8:00-8:30/17:00-19:00 病棟業務	○	○	○	○	○		
8:30-17:00 外来業務	○	○	○	○			
9:00-13:00 外来検査業務	○	○	○	○			
14:00-17:00 外来侵襲的検査業務		○	○	○			
8:30- 手術	○			○	○		
13:30- 研究カンファレンス	○						
14:30- 臨床カンファレンス	○						
16:00- 抄読会	○						

③熊本セントラル病院

	月	火	水	木	金	土
カンファ 9時～	○					
外来 9時-12時	○	○	○	○	○	○
外来 14時-17時	○		○		○	
オペ (午後)		○		○		

④武蔵ヶ丘病院

	月	火	水	木	金	土
午前	GF	手術	外来診療	外来診療	GF	
午後	CF	術後管理	NST・病棟	救急・病棟	救急・病棟	

⑤愛知医科大学病院

	月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:15 消化器内科・外科合同カンファレンス(消化)	○	○					
7:45-8:15 消化器内科・外科合同カンファレンス(肝胆)	○						
7:45-8:00 抄読会、勉強会			○				
7:45-8:15 前週手術症例反省会				○			
8:00-8:15 朝ミニカンファレンス	○	○	○	○	○		
8:15-10:00 病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00- 手術	○	○	○	○	○		
9:00-10:30 総回診	○						
16:00-17:30 病棟業務	○	○	○	○	○		
17:30-19:30 次週手術症例検討会 消化器など		○					
19:30-20:00 外科問題症例検討会		○					
抗癌剤検討会	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜		
9:00-12:00 休日病棟回診(当番日)						○	○

⑥上天草総合病院

月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00 病棟業務 内視鏡検査	7:30~8:30 総回診	9:00~ 外来	8:30~12:00 病棟業務 内視鏡検査	8:30~12:00 病棟業務 内視鏡検査		
13:00~ 下部内視鏡 ERCP等	15:00~17:00 腹部CT・マン モグラフィ・カ ンファレンス	13:00~17:00 手術	13:00~ 下部内視鏡 ERCP等	13:00~ 下部内視鏡 ERCP等		
17:00~ 医局会・勉強 会						

※平日に週1回程度当直、土日に月1回程度当直

⑦手稲溪仁会病院

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:30 抄読会、検討会			○				
7:30-8:30 勉強会						○	
8:00-8:30 朝カンファレンス	○						
8:30-9:00 ICUカンファレンス	○	○	○	○	○	○	
9:00-12:00 病棟業務	○	○	○	○	○	○	
9:00-12:00 外来		○		○			
9:00- 手術	○	○	○	○	○	○	
17:00-18:00 タカンファレンス	○		○	○	○		
17:30- 内科外科合同カンファレンス		○					
18:30- 病理合同カンファレンス				○			
13:00-16:00(院外) シミュレータートレーニング				○			
7:30-8:30 外傷カンファレンス(第4週)			○				

⑧聖マリア病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:00カンファランス	○	○	○	○	○	○	
9:00手術(消化器外科)午後も同様	○	○	○				
9:00手術(心血管外科)午後も同様	○		○		○		
9:00手術(呼吸器外科)午後も同様		○		○			
9:00手術(乳腺外科) 午後も同様				○			
9:00回診	○	○	○	○	○	○	
10:00総回診			○				
13:00手術(小児外科)	○		○		○		
外来(午前)	○	○	○	○	○	○	
外来(午後)小児外科・呼吸器外科を除く	○	○	○	○	○	○	
16:00消化器合同カンファランス(消化器内赤・放射線科)				○			
17:30腎移植カンファランス	○						
16:00術前カンファランス					○		

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

月	全体行事予定
4	<ul style="list-style-type: none"> ・外科専門研修開始 専攻医及び指導医に提出用資料の配布 ・日本外科学会参加（発表） ・縫合・結紮トレーニング
5	<ul style="list-style-type: none"> ・研修修了者：専門医認定審査申請・提出
8	<ul style="list-style-type: none"> ・研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
11	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床外科学会参加（発表）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成（年次報告） ・専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成 ・指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成
3	<ul style="list-style-type: none"> ・アニマルトレーニング ・その年度の研修終了 ・専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 ・指導医・指導責任者：前年度の指導実施報告用紙の提出 ・研修プログラム管理委員会開催

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル - 到達目標 3- 参照）

- 1) 基幹施設及び連携施設それぞれにおいて医師及び看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聞くことにより、具体的な治療と管理を学びます。
- 2) 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線科とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比します。
- 3) Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどにより合同カンファレンスを行います。
- 4) 基幹施設と連携施設による症例検討会：各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を定期的に基幹施設、あるいは連携施設の施設を用いて行い、発表内容、スライド資料の良否、発表態度などについて指導的立場の医師や同僚・後輩から質問を受けて討論を行います。
- 5) 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 6) シミュレーションルームの利用やアニマルトレーニング参加、手術ビデオカンファレンスなどを通して積極的に手術手技を学びます。
- 7) 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他の各種研修セミナーや基幹施設及び連携施設内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
 - 標準的医療及び今後期待される先進的医療
 - 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決しえない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画することで解決しようとする姿勢を身につけます。

学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらに得られた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアルー到達目標 3 参照）

- 日本外科学会定期学術集会に 1 回以上参加
- 日本消化器外科学会、日本心臓血管外科学会、日本呼吸器外科学会、日本小児外科学会、日本乳癌学会等の関連学会にも 1 回以上参加
- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

（専攻医研修マニュアル - 到達目標 3- 参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれます。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
 - 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技術及び態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
 - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
 - チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - 的確なコンサルテーションを実践します。
 - 他のメディカルスタッフと協調して診療に当たります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと
 - 自らの指導技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。
- 6) 保険医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
 - 健康保険制度を理解し、保健医療をメディカルスタッフと協調し、実践します。
 - 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
 - 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは熊本赤十字病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で隔たりのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。

施設群における研修の順序、期間などについては、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、地域の医療体制を勘案して、熊本赤十字外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアルー経験目標3参照）

現在は地域完結型医療が求められており、地域医療における病診連携、病病連携、地域包括ケア、在宅医療などは知っておくべきものであります。本プログラムでは地域連携施設で一定期間研修することにより、地域医療の実情を学び実践することができます。

●地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携について理解する。

- 高度急性期や急性期のみではなく、回復期や慢性期における診療の理解を深めます。
- 施設ごとの特性に応じて、初期診療、診断、手術、化学療法、併存疾患の治療、長期フォローアップ等を実践します。
- 高齢者、がん患者など終末期およびそれに準じた患者の診療や介護において、介護施設との連携、在宅診療、緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案、実践します。

10. 研修施設群の概要について

1) 各研修施設の概要

	病院名	病床数	年間入院患者	年間外来患者数	年間手術件数	指導医数	研修担当分野
基幹施設	熊本赤十字病院	490	17,767	290,838	2,193	17	1.2.3.4.5.6
連携施設	熊本大学病院	795	246,797	362,324	2,199	25	1.2.3.4.5
連携施設	熊本セントラル病院	308	3,359	18,267	250	4	1
連携施設	武蔵ヶ丘病院	150	1381	40,431	85	3	1.6
連携施設	愛知医科大学病院	920	24,196	44,068	2,617	25	1.2.3.4.5.6
連携施設	上天草総合病院	195	3,431	39,456	169	指導医なし	1.6
連携施設	手稲溪仁会病院	670	17,595	52,359	2,098	19	1.2.3.4.5.6
連携施設	聖マリア病院	1097	296,224	344,268	2,424	21	1.2.3.4.5.6

研修担当分野……1：消化器外科、2：心臓血管外科、3：呼吸器外科、4：小児外科、5：乳腺内分泌外科、6：その他（救急含む）

①熊本赤十字病院

特徴：救命救急センター

地域医療支援病院

災害拠点病院（基幹災害医療センター）

小児救急医療拠点病院

地域がん診療連携拠点病院

地域周産期母子センター

診療科目：内科、腎臓内科、糖尿病内科、リウマチ科、血液・腫瘍内科、精神腫瘍科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

<連携病院紹介コメント>

②熊本大学病院

熊本大学病院の外科分野を基幹とし、基本外科手技、標準外科医療から先進的で高度な医療外科医療ま

での幅広い外科研修を行います。これにより、一般外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し、プロフェッショナルとしての態度を身につけ、総合的な外科医療を担うことが可能です。また、大学病院を基盤としたサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）とそれに準じた関連領域の研鑽も同時に行うことで専門性の高い外科修練とサブスペシャリティ外科専門医へつなげることができます。

③熊本セントラル病院

当院は、熊本市と阿蘇の中間に位置し、また熊本空港・九州自動車道にも近く、アクセス的にも恵まれた場所に在ります。しかも、地元の菊陽町・大津町は県内で唯一人口が増加しており、特に企業誘致も盛んで、生産年齢人口が多い地域でもあります。そのような環境の中で、菊池郡市だけでなく、阿蘇全域から患者さんが受診されることから、開設当初から地域のニーズに応えるべく、診療体制の充実を図り、急性期医療・救急医療に力を注いできました。

内科系では消化器内科が中心となり、日本消化器病学会・日本肝臓学会認定施設として、消化管疾患・肝胆膵疾患の診断治療に積極的に取り組み、実績を伸ばしてきました。2016年からは、消化器外科も充実してきたことから、さらなるレベルアップを図っています。また、高齢化により疾患も多様化する中、呼吸器内科・循環器内科・神経内科・代謝内科・血液内科の各専門医が連携をとりながら内科診療を行っています。

外科系では整形外科が中心であり、特に高齢者の骨・関節疾患・外傷など患者数は圧倒的に多く、それに伴い手術件数も急速に増加しています。その他、外科・脳外科・血管外科・眼科・耳鼻科も年々手術数を伸ばしています。同時に、手術に対応できるよう、麻酔科も強化してきました。救急医療に関しては、できるだけ救急車を受入れる方針で、現在年間約1600件の救急搬入があり、社会医療法人取得いたしました。

地域医療について、その中での外科医の役割について学ぶ機会が豊富にあります。積極的な研修医をお待ちしています。

④武蔵ヶ丘病院

武蔵ヶ丘病院は、「まっすぐに、人と向きあう」を院是とし「医業を通じて人に、社会に、貢献する」を理念として、職員一人ひとりが専門職としての誇りを持ち、地域に根ざした医療の提供に日々邁進しております。

外科疾患の診断、治療に加え手術及び術後の経過観察を通じて一連の流れを主体的に関わることができます。また、ターミナルケアの実施にも取り組んでおり、総合的な医療を学ぶことが出来ます。さらに、退院後のフォローとして、在宅医療と各種介護保険及び介護予防サービスの提供を行っております。

⑤愛知医科大学病院

病院詳細についてはホームページを参考にしてください。

⑥上天草総合病院

当院は、眼前に不知火海（八代海）、後方には阿蘇や霧島まで眺望できる龍ヶ岳が聳え、雲仙天草国立公

園の一角に位置した風光明媚なところです。診療科は内科、外科、小児科など23診療科、一般病床149、療養病床46、計195床を有するほか、介護老健施設や健康管理センターなどの関連施設を併設し、地域包括ケアシステムの構築にも力を入れています。また、MRIや血管造影装置などの近代的設備を備え、開放型病院、救急告示病院、災害拠点病院、洋上救難救急病院などの認定を受け、当院の理念である「信頼される地域医療」を目標に、上天草地域の中核病院として医師会や介護・福祉施設などの連携を密にし、外科については、標準的な外科治療に加え、高齢者42%の地域ならではのオーダーメイドの外科治療をめざしています。

また、地域医療の質の向上に努力し少子高齢化に対応する為に、産婦人科、小児科、内科、眼科、整形外科などの診療機能を充実させ、赤ちゃんからお年寄りまで地域の皆様が住み慣れた町で、健康で安心して生活できる町づくりに貢献しています。

⑦手稲溪仁会病院

当院は道央ドクターヘリ基地病院と救命救急センターを併設した地域医療支援病院です。各診療科の垣根が低く、初期から三次救急を病院の責務として全診療科で対応しています。症例が非常に多く、その内容もバラエティに富んでいるため、各プログラムに十分な症例数が確保されています。外科では、食道44、胃86、大腸268、膵71、肝53、ヘルニア134、ラパ胆252、虫垂炎137、肺162、乳腺88、急性腹症336、心血管376と多数手術で、専攻医に多く執刀していただかなければ回りません。ダヴィンチ（心、肺、食道、胃、直腸）導入しています。スタッフ医師数も多く、指導医から充実したフィードバックを受けることができます。たくさんの手術機会に恵まれ、手術のできる外科医になれます。

⑧聖マリア病院

病院詳細についてはホームページを参考にしてください。

11. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル・VI・参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へさらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。

※専攻医研修マニュアル IV 参照

12. 専門研修プログラム管理委員会について（外科専門研修プログラム整備 基準 6.4 参照）

基幹施設である熊本赤十字病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。

各連携施設には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修委員会組織がおかれます。

熊本赤十字病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委

員長、事務局代表者、外科の5つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外科）及び外傷外科の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には、専門医取得直後の若手医師代表が加わります。

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

1 3. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は、専攻医の労働基準改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は、専攻医のメンタルヘル스에配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1 4. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表及び3年間の実地経験目録に基づいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に専門研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が専門研修プログラム管理委員会において評価し、専門研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

1 5. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアル VIII を参照してください。

1 6. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

- 1) 研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

熊本赤十字病院にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

- 2) マニュアル等

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

- 専攻医研修マニュアル：「専攻医研修マニュアル」を参照してください。

- 指導医マニュアル：別紙「指導医マニュアル」を参照してください。
- 専攻医研修実績記録フォーマット：「専攻医研修実施記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに記録します。
- 指導医による指導とフィードバックの記録：「専攻医研修実施記録」に指導医による形成的評価を記録します。

17. 専攻医の採用と修了

1) 採用方法

熊本赤十字病院では令和4年度、2名の外科専攻医を募集します。

熊本赤十字外科専門医プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会などを行い、外科専攻医を募集します。

<応募条件>

- ・令和4年4月1日までに初期臨床研修を修了しているものもしくは修了見込のもの
- ・外科診療に熱意を持って取り組めるもの

<必要書類>

- ・履歴書（当院様式）※当院ホームページよりダウンロード可
- ・医師免許証（コピー）
- ・臨床研修修了登録証（コピー）または臨床研修修了見込証明書
- ・健康診断書（様式自由）

<応募締切>

令和3年9月上旬（予定） ※変更になることもあります。事前にお問い合わせください。

<選考方法>

書類審査、及び面接試験のうえ、採否を決定し本人に文書で通知します。

応募者及び選考結果については10月のプログラム管理委員会にて報告します。

専攻医が定員に満たない場合、追加募集を行うことがあります。

<研修開始届>

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局および、外科研修委員会に提出します。

- 必要書類・専攻医の氏名、移籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
 - ・専攻医の履歴書（様式 15-3 号）
 - ・専攻医の初期研修修了証

<修了要件>

専攻医研修マニュアル参照

<資料請求・問い合わせ先>

〒861-8520 熊本県熊本市東区長嶺南 2-1-1

熊本赤十字病院 教育研修推進課

TEL : 096-384-2111

FAX : 096-384-2395

E-Mail : rinsyokensyu@kumamoto-med.jrc.or.jp

17. 処遇・福利厚生について

処遇等

身分	常勤嘱託職員
給与	基本給 専攻医 1 年目 (卒後 3 年目) 360,000 円 専攻医 2 年目 (卒後 4 年目) 420,000 円 専攻医 3 年目 (卒後 5 年目) 500,000 円
手当	住居手当、通勤手当、時間外・深夜手当、宿日直手当、待機料別途支給
賞与	年 2 回
モデル給与	基本給、賞与、各種手当 (住居手当・時間外手当、宿日直手当等) を含む年度支給平均額 (平成 26 年度の対象者の平均)。参考であり、実際の支給額は時間外勤務時間数や当直回数により変動します。 専攻医 1 年目 総支給額 760 万円 専攻医 2 年目 総支給額 860 万円 専攻医 3 年目 総支給額 1,050 万円
宿舍	職員宿舍あり (単身用・1LDK・駐車場付・病院から徒歩 5 分以内) 但し、入居希望者多数の場合は抽選となることがあります。
勤務時間	週 38 時間 45 分 平日 8 : 30~17 : 05 (休憩 50 分)
休暇	年次有給休暇 24 日 夏季休暇、慶弔休暇等の特別有給休暇制度あり
社会保険	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
健康管理	職員定期健康診断 (年 2 回)、各種予防接種

	メンタルヘルスカウンセリング制度
その他	職員食堂、院内職員用大浴場、仮眠室、ランドリー完備、医局内後期研修医室、白衣・スクラブ、互助会、院友会、院内職員用トレーニングルーム、音楽室、リラクゼーションルーム、テニスコート、グラウンド、各種クラブサークル活動、病児保育、院内保育



【職員食堂】 定食メニューは毎日変わります



【職員用浴室】



【職員用トレーニングルーム】



【音楽室】



【職員用リラクゼーションルーム】



【図書室】



【職員宿舎マカウス】



【職員宿舎リブレコート】



【病院グラウンド】 野球場、テニスコート

<イベント>

【誕生夕食会】 毎月、誕生月の職員を迎えて職員食堂で夕食会が開かれます。フレンチのオーナシェフ経験者の当院シェフがフルコースディナーを振舞います。

<院内サークル活動>

【フットサル部】【テニス部】【バレーボール部】【野球部】【駅伝部】
【バスケットボール部】 などがあります。